

平成 29 年度サービス第三者評価結果（公益社団法人全国有料老人ホーム協会）

法人名	さっぽろ高齢者福祉生活協同組合	ホーム名	イリス南郷通	ID	0077
	評価機関	株式会社ケアシステムズ		評価日	2018.1.20

スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A
1.1.2	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.3	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	非該当	非該当
1.1.4	A	A	2.3.6	A	A	6.2.2	非該当	非該当
1.2.1	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	非該当	非該当
1.2.2	A	A	2.3.8	非該当	非該当	6.2.4	非該当	非該当
1.2.3	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	非該当	非該当
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	非該当	非該当
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	非該当	非該当
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	C	C	2.4.2	A	A	6.2.9	B	B
1.4.2	C	C	2.4.3	A	A	6.3.1	非該当	非該当
1.4.3	C	C	2.4.4	A	A	6.3.2	B	B
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	C	C
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	A	A	7.3.1	非該当	非該当
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	非該当	非該当
1.5.2	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	非該当	非該当
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	非該当	非該当
2.1.2	B	B	4.1.1	A	A	7.4.2	非該当	非該当
2.2.1	A	A	4.1.2	C	C	7.4.3	非該当	非該当
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	非該当	非該当
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	非該当	非該当
2.2.5	A	A	4.2.2	A	A	7.5.2	非該当	非該当
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	非該当	非該当
2.2.8	A	A	5.2.1	B	B	7.5.5	非該当	非該当
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	B	B
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	非該当	非該当	5.2.5	非該当	非該当	7.6.2	A	A
2.3.2	C	C	6.1.1	非該当	非該当	7.6.3	A	A

評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
4-2-1	1階のフロントカウンターの背後には事務室を配置しており、入居者からの問い合わせや様々な生活相談に対して迅速に対応できるようにしている。事務室には施設の管理者をはじめ看護師を常駐させ、健康に関する相談も受け付けることにしている。訪問調査を行った際にも、職員が入居者に対して丁寧な対応に取り組んでいる様子が確認できている。また、各居室のトイレに配置された人感センサー、食事の利用記録、電話やインターネットの利用状況などから一定時間利用がなかった際には、電話や訪問によって安否確認する仕組みも設けている。
4-2-2	副施設長を中心に地域との様々な取り組みを推進しており、利用者が地域の社会資源を活用したり、施設の専門性を地域社会に還元したりする取り組みが定着している。中でも、地域の中学生のプラスバントが訪れ、入居者に日頃の成果を披露する取り組みは入居者からも人気が高い。また、町会とは日頃よりコミュニケーションを図っており、介護保険の説明会などの出張講座を開催したり、地域包括支援センターと連携を図り、感染症対策などの情報を収集したりしている。それらの地域ネットワークで収集した各種の情報は運営懇談会などの機会を通じて入居者に還元している。
2-1-1	入居希望者に対しては、法人理念や基本方針などを理解してもらった上で入居してもらうことを大切にしており、定期的に施設の説明会（セミナー）を開催し、その後施設見学会を行う仕組みを設けている。セミナーでは、「直営の介護サービス事業所を併設していること」「食事に関してはいつでも予約できること」「看護師も配置している充実したフロント機能を有していること」などの施設の特長を説明し、実際の見学会で確認してもらうようにしている。入居が決定した際には本部の営業担当が居住先へ赴き、事前面談を必ず実施している。また、家族に対してはサービス内容の詳しい説明に加え、重要事項説明書の読み合わせを行い、特に利用料金に関わる事柄については丁寧に説明することになっている。さらに、日常においては、施設長をはじめ職員一人ひとりが入居者とのコミュニケーションを密にすることを心がけている。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
6-1-1	施設は介護保険事業所を併設しており、一般住戸において生活しながら公的な介護が受けられるようにしている。また、2階には介護専用住戸を配置し取り、入居時より介護を必要とする方や、入居後に介護が必要になった際は条件を整理したうえで入居できるようにしている。ただし、地域ニーズから2階介護専用戸は満室になっている。それらの状況を踏まえ、法人では新たに介護専用戸を近隣に開設することを計画している。今後ともに介護ニーズが高くなることを踏まえ、新たな施策を構築することが望まれる。
1-4-1	職員の採用や育成に関しては法人として一括して実施しており、人事制度や職員満足度調査などから把握した情報も加味し人材開発会議において検討している。現在、施設は職員60名体制（正職員、パート職員）になっていることを踏まえ、さらに標準化を図ることを目指している。日常業務においては職員からの提案を聞き取ることに力を入れており、職員一人ひとりの自主性や主体性を育むことにも取り組んでいる。個別の面談で課題についてリーダー職員がOJTなどで指導育成も合わせて行っている。さらに、マンパワーの充実のため必要な人材確保を行い、法人が掲げている自立支援の実現に向けて一丸になることを期待したい。
2-4-3	事故対策をはじめ、感染症、災害、などのリスクに対するマニュアルを設けて、安全性の高い施設運営を目指している。災害対応手順や防災対応手順などの確認を行うために防災訓練を実施している。さらに事故防止委員会を月1回、リスク防止委員会を月2回開催して、職員への注意喚起を促している。利用者の安全確保の取り組みとして、町会との協力体制づくり、事故・ヒヤリハットの共通理解、事故の再発防止策の期間を定めた検証などを期待したい。